

クラウド型翻訳プラットフォーム Memsorce

～翻訳支援ツールから翻訳プラットフォームの時代へ～

加藤 じゅんこ

1 翻訳支援ツールとは

1990年代半ば、TRADOS社のTranslator's Workbenchがリリースされて以降、「翻訳支援ツール」が広がっていった。

翻訳支援ツールとは、翻訳メモリ/用語集/機械翻訳エンジンを利用して、効率的に翻訳を行うツールである。翻訳支援ツールが利用される目的として最も大きいのは、通常、翻訳メモリの蓄積と利用である。翻訳メモリは過去の翻訳データを蓄積し、再利用するものである。これにより、表現の統一・翻訳時間の短縮といった効率化が可能となる。

翻訳メモリを使って翻訳を行う場合、原文との一致率によって、完全一致・あいまい一致/ファジーマッチ・マッチなしという3つのパターンが存在する。一致率は文と、翻訳メモリ内の原文がどれくらい似通っているかで算出される。たとえば、「How to make apple pie:」が今回の原文だとして、翻訳メモリ内にまったく同じ原文をもつデータがあれば、100%一致となる。翻訳メモリ内に「How to make **perfect** apple pie:」という原文があれば、あいまい一致となる。あいまい一致を修正して翻訳していくことにより、以前の翻訳との整合性がとれ、また翻訳する時間も短縮することができる。TRADOS社の製品は翻訳の効率化を可能にするツールとして、ローカライズ業界に広がっていった。

その後、各種翻訳支援ツールが誕生した。またプラットフォームも、当初はデスクトップタイプのみであったがIT技術の変遷と共に進化していった。

インターネットテクノロジーの発達に伴い、ローカルPC上でのみ使用可能なデスクトップ型から、共有が可能なオンプレミス版が登場した。社内サーバー等に翻訳メモリ・用語集を置き、社内でも共有することができるようになった。さらに通信速度の安定化・高速化に伴い、2010年頃から、クラウドベースの翻訳支援ツールが広まっていった。

こうしたプラットフォームの変化により、翻訳支援ツールの役割そのものにも変化が起こっている。当初は翻訳者が翻訳を行う翻訳エディタ部分にのみ焦点が当てられていたが、オンプレミス版・クラウド版と進化していくにつれ、翻訳を管理するために便利なワークフローの管理機能・リソースの共有化機能といった機能が加わっ

ていった。さらに機械翻訳エンジン等外部システムとの連携も可能となった。

個人単位ではなく、企業内でプロジェクトとして進める翻訳においては、こういった機能は翻訳プロジェクトの効率化を大きく左右するものでもある。翻訳支援ツールはすでに単なる翻訳メモリの活用ではなく、翻訳管理システム(TMS)・翻訳プラットフォームへと進化をしているといえる。プロジェクトの管理者(プロジェクトマネージャー)は、ツールを使いこなすことで、大量・短納期のプロジェクトを効率よく運用することが可能となる。

今回、主にプロジェクトマネージャーが扱う機能を中心とし、クラウド型ツール「Memsorce」を紹介する。本ツールは5年前にリリースされた新しいツールであるが、翻訳プラットフォームとしての様々な機能を備えている。まずはMemsorceの基本機能をご説明したうえで、翻訳プロジェクトの管理機能・リソースの共有化機能・自動化機能・外部連携機能、といった翻訳プラットフォームとしての機能をご紹介します。翻訳プラットフォームを導入することで、翻訳のフローがどのように効率化されていくのか、見ていきたい。

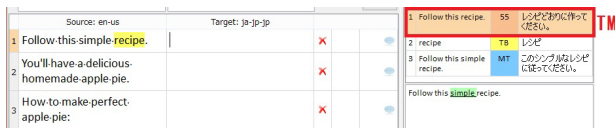
2 Memsorce について

Memsorceは2010年にチェコ共和国で設立された会社である。2011年夏に同名のクラウド型翻訳プラットフォームをリリースした。以降、ユーザー数は増え続け、現在5万人を超える。現在Memsorce上で翻訳されるワード数は毎月5億～8億ワード程となる。日本でも2012年以降、採用する翻訳会社・企業が増えている。

すでに競合製品があるなかでMemsorceが選ばれる大きな理由のひとつは、翻訳を行うエディタ部分の分かりやすい操作性にある。翻訳支援ツールは当初は比較的PCの操作が得意な分野のユーザー(翻訳者)に使われていたが、最近は分野を問わず使用が広がっている。そういったなかで、トレーニングに時間がかかるツールより、直感的な操作が可能なツールが好まれるようになっていく。

Memsource の翻訳エディタの基本操作については下記のとおりである。

【Memsource 翻訳エディタ】



上記は翻訳を行う Memsource の翻訳エディタの画面である。左側に原文があり、右側に翻訳をいれていく訳文列がある。右側にプロジェクトに設定した翻訳メモリ・用語集・機械翻訳の結果が表示される。

- ① 翻訳者は右側を参照しつつ、訳文をいれていく。
- ② 訳文をいれおえるごとに、文節ごとに、Ctrl+Enter キーを押す。
- ③ その瞬間に訳文は文節ごとに翻訳メモリに登録される。

Memsource には各種オプションがあるが、基本的には上記のシンプルな操作のみで翻訳を進めていくことができる。

原文欄のワード・フレーズを選択し、Ctrl+K キーボタンを押すと、一致率とは関係なく、選択した部分を含む翻訳メモリ・用語集・機械翻訳の串刺し検索もできる。

翻訳後には品質管理チェックを実施することで、原文と訳文の数字の不一致、用語集の用語の不使用、といった人の目では見つけにくいケアレスミスを検出することができる。

3 プロジェクト管理機能

次に Memsource の翻訳管理システムとしての機能をご紹介します。

翻訳を管理するプロジェクトマネージャーは、原稿・翻訳メモリ・用語集・参考資料をプロジェクトごとにアップロード・設定する。その後、Memsource 上で翻訳者・校正者といった作業者を割り当てる。各作業者は Memsource サーバーにアクセスし、原稿・参考資料をダウンロードし、翻訳メモリ・用語集を参照しつつ翻訳を進めていく。ファイルのやりとりは Memsource 上で完結するため、別途、プロジェクトマネージャーと各作業者がメール等で受け渡しを行う必要はない。各プロジェクトで使用されるファイルを一元管理していくことができる。

プロジェクトの進行中、プロジェクトマネージャーは、翻訳の進捗状況をリアルタイムで把握することができる。進捗

状況はパーセンテージでも表示される。途中経過のファイルをダウンロードし、チェックすることも可能である。

【Memsource プロジェクト管理画面】



「翻訳プロジェクト」は翻訳・校正・ネイティブチェック、といった複数の工数が含まれることが多いが、Memsource では工数(ワークフロー)をプロジェクトごとに設定することが可能である。各工程は「ステータス」で管理されている。ある工程が終了するとステータスが「完了」となり、次の工程の作業員へ自動でメールが送信される。これにより、プロジェクトマネージャーからの指示連絡を待たず、各作業員が作業を始められるようになっている。

4 プロジェクト・リソースの共有機能

デスクトップ型のツールの場合には、プロジェクトの関係者が個々に翻訳メモリ・用語集といったリソースを更新していくことになる。プロジェクト終了後、翻訳者はプロジェクトマネージャーにプロジェクトで更新した翻訳メモリ・用語集を提出する。プロジェクトマネージャーは提出された翻訳メモリ・用語集を都度統合・管理していく必要がある。

クラウド型ツールでは、翻訳メモリや用語集といったリソースはクラウドサーバー内に格納される。プロジェクトごとに、プロジェクトにかかわる全員が同じリソースを共有する。更新があった場合には全員が更新後のリソースをほぼリアルタイムで利用することができる。

さらに、Memsource には「プロジェクト共有」という機能がある。別々のアカウントを所有するユーザー同士がプロジェクトを一時的に共有することができる機能である。通常、翻訳を発注する企業では、ベンダーである翻訳会社に翻訳を依頼すると、翻訳メモリが手元に残らなくなってしまう場合が多い。翻訳メモリという言葉リソースの概念が分野を問わずに広まっている近年、こういった状況を嬉しく思わない発注企業が増えている。Memsource のプロジェクト共有機能を使用して翻訳を発注することで、発注企業側、受注側双方がプロジェクト完了後、最新の翻訳メモリと用語集を手元に残しておくことができる。発注側の企業にとっては、翻訳を外注した場合でも、翻訳メモリ・用語集といった言語リソースを自動的に自社内で一元管理していくことが可能となる。

5 ワークフローの自動化機能

次に自動化機能について述べる。Memsource 内にはいくつかの自動化機能があるが、もっとも活用されているのが、案件打診業務の自動化機能である。

通常、プロジェクトマネージャーは、翻訳者に翻訳案件をメールで打診する。引き受けてもらえない旨の返信を受信すると、次の候補者に案件の打診を行う必要がある。案件を引き受けってくれる翻訳者が見つかるまで手動で打診メールを送信し続けることになる。

Memsource では、指定した時間間隔ごとに順番に複数翻訳者に打診メールを送ることができる。誰かが案件を引き受けると、Memsource システムより自動でメールがプロジェクトマネージャーに送られる。その後、打診メールを受け取った他の翻訳者は、プロジェクトにアクセスすることができなくなる。

【Memsource 案件自動打診設定画面】

ほかにも、設定したオンラインストレージを指定した時間ごとに確認し、新しいファイルがあれば自動的にプロジェクトを作成するといった自動化機能もある。その際、上記の案件打診業務の自動化機能を組み合わせ、複数作業者に一定の時間間隔ごとに打診メールを送ることもできる。既存の Memsource の機能と組み合わせると、下記のようなワークフローをすべてプロジェクトマネージャーの介入なしに進めていくことが可能となる。

- ① クライアントが指定したオンラインストレージに翻訳原稿をアップロードする
- ② Memsource システムがファイルを確認し、Memsource 上にプロジェクトを作成する。その際、翻訳メモリ・用語集・参考資料・翻訳者/校正者といったリソースや作業情報も紐づけておくことができる。
- ③ 翻訳作業を紐づけてある場合には、Memsource システムより案件の打診メールが翻訳者に送られる。
- ④ 打診を受けた翻訳者は Memsource にログインし、作業を開始する。翻訳者が作業を開始したタイミング・完了したタイミングでプロジェクトマネージャーに自動メールが送信される。
- ⑤ 翻訳者が作業を完了した後、つぎの校正作業へ自動メールが送信される。校正作業者は校正作業を開

始する。校正者が作業を開始したタイミング・完了したタイミングでプロジェクトマネージャーに自動メールが送信される。

一連の自動化作業の間、プロジェクトマネージャーはいつでも Memsource にログインし、現在の進捗状況を確認することができる。

6 外部ツールとの連携・API の利用

最後に、クラウド型ツールに特有な機能として、外部連携機能についてご紹介する。Memsource では現在、下記システムとの連携が可能である。

- Google Drive
- Dropbox
- FTP
- WordPress
- 各種機械翻訳エンジン(2016年12月現在17個)

また各種 API を提供しており、ユーザー側が自由に社内で使用しているプラットフォームと Memsource の連携を進めてもらえる形になっている。API はたとえば 2016 年のある週を例にとると、16,503,408 回使われている。API を利用しているユーザー数自体は多くはないが、活用しているユーザーは、かなりの高頻度で使用している、という状況である。

7 まとめ・今後の発展について

1990 年代半ばに翻訳資産の蓄積と再利用を目的として誕生し、発展していった翻訳支援ツールであるが、現在、その基本機能から大きく発展し、翻訳管理システム・翻訳プラットフォームへと進化している。今後の翻訳ではこういった翻訳テクノロジーをうまく使いこなし、効率化をはかっていくことが、翻訳会社、そして企業の翻訳部門にとって重要な戦略となる。

今回は、クラウド型翻訳支援ツールの Memsource の機能を通し、翻訳管理システム・翻訳プラットフォームとしてのツールの機能を紹介した。Memsource を使うことでプロジェクト管理・リソースの共有化・ワークフローの自動化・外部ツールとの連携といったことが可能になる。こういった機能を使いこなすことで、プロジェクトマネージャーの作業時間を減らすことが可能となる。

今後、Memsource でも、また他のシステムにおいて

も、こういった機能はさらに発展していくと予想されるが、これにより、プロジェクトマネージャーは翻訳メモリの選定や品質管理など、より専門知識が問われる業務・ヒトの判断が必要な業務へと時間をかけることが可能となる。これにより、翻訳会社は他社と比較しての独自の優位性を高めることができる。また、外部連携もさらに進んでいくと予想される。社内システムとの連携、他のシステムとの連携により、さらなる効率化が可能となる。今後利用の拡大が予想されている機械翻訳エンジンとの連携も重要なポイントである。